

フランス語で世界にはばたこう

どこで話されていることば？

フランス語の常時使用者は約1億2300万人、時々フランス語を話す人は7200万人で、世界のフランス語人口は合計約2億人です。フランス語は英語と並んで国連の作業用の言語であり、欧州会議やオリンピック委員会、ユネスコ、世界貿易機関、NATOなど多くの国際機関の公用語・作業語として用いられ、国際機関で活躍するには必須の言語です。



フランス語は世界29か国の公用語であり、また50か国以上の国で話されています。それでは、フランス以外のどこで話されているのか見ていきましょう。

まず、ヨーロッパではベルギーやスイス、ルクセンブルグ、モナコの公用語です。また、北米ではカナダのケベック州を中心に約650万人が母語としてフランス語を話します。また、マグレブと呼ばれる北アフリカのモロッコ、アルジェリア、チュニジアではフランス語が第2言語として広く使用されています。サハラ以南のアフリカ諸国（セネガル、コートジボワールなど）、カリブ海（ギアナやグアドループなど）、かつて仏領インドシナと呼ばれたベトナム、ラオス、カンボジア、太平洋の島々（ニューカレドニア、フランス領ポリネシアなど）でもフランス語が使用されています。

日本語・英語とはどんな関係？

1066年に、フランス国王の臣下であるノルマンディー公ギヨーム（英語ではウィリアム）がイギリスを征服します。その後300年以上にわたってイギリスの歴代の王はフランス語を話すことになります。その結果、現在の英語の語彙の半分はロマンス語系（フランス語とラテン語）です。

また古いフランス語が英語になだれ込んだので、同じ起源を持つ現代英語と現代フランス語とに異同があるのも面白い現象です。現代でも英語の beauty とフランス語の beauté は同意ですが、英語の travel（旅）とフランス語の travail（仕事）では異なっています。古仏語の travail は中世ラテン語の tripalium（「三本杭」の意で動物を繋いで焼印を押したり人を縛って拷問に使った）ので「拷問」「激しい苦痛」の意味でした。島国の英国人にとっては旅が苦痛であり（同じ島国の日本の「かわいい子には旅をさせよ」＝「苦勞させよ」と似ています）、フランス人にとっては仕事が苦痛だったわけです。

現代英語の nice は古仏語の nice（無知な、愚かな）から派生していて、英語の現代の意味「すてきな」を十分に説明することは不可能に近い（ウィークリー『言葉のロマンス』）とされています。ですが、中世の物語に拠れば、「無知な」青年ペルスヴァルが最後に聖杯を手に入れることができます。してみると「無知な」ことは、これから大事なことを知ることができる

という意味で、「すてきな」ことなのかもしれません。不思議なことに nice は現代フランス語では消滅してしまっています。

次に日本語との関係を見てみましょう。フランス語は日本語とは大変異なった言葉です。でも、みなさんが知っているフランス語が日本には溢れています。例えばお菓子の名前です。カフェオレ、パン、クロワッサン、ガトーショコラ、タルト、ムース、エクレアなど。ところで、「ラングドシャ」というビスケットをご存知ですか？ ラング=舌、ド=英語の「of」に似た前置詞、シャ=猫 という3語からなり、「猫の舌」という意味です。確かに薄いビスケットの形が猫の舌に似ています。こんなふうに、お菓子や料理の名前からどんな食べ物か推測してみましょう。

音と文字

フランス語はラテン語が崩れてできたロマンス語（他にイタリア語、スペイン語、ポルトガル語、ルーマニア語など）のひとつなので、原則的にはローマ字読みです。ローマ字読みしない点だけを以下に説明しましょう。

なぜローマ字読みしないかというと、音は革新的で、文字（表記）は保守的だからです。文字はまずその当時の音を正確に表記しようとします。ところが文字表記が一旦できあがると、音は次第に変わって行くのに文字表記はなかなか変えられません。たとえば日本語の「私は」「図書館へ」「本を」も「わ」「え」「お」と発音するのに、発音の通りには書けません。保守的ですね。フランス語でも中世・ルネサンスを通じて慣例化した表記は、十七世紀にはすでに発音と合っていなかったのですが、当時の言語学者が慣例を尊重してそのまま採用してしまったのです。そのときすでに最後の子音は発音しなかったし、重母音は短母音化していたのです。

最後の子音は例外を除いて発音しません。Paris は「パリ」、Louis は「ルイ」です。重母音の短母音化の現象は規則的なもので例外がほとんどありません。ai は「アイ」ではなく「エ」と発音します。なぜ重母音が短母音化するのでしょうか。それは口の筋肉の経済効率化なのです。発音は短母音の方がはるかに楽です。日本語でも「見たい mitai」と言うより「見てえ mite」と言う方が楽です。「アイ」が「エ」になるのですから、現象としてはフランス語と全く同じですね。口の構造はどの民族でも似ているからでしょう。au と eau は「オ」と、ou は「ウ」と発音します。eu と oeu は「オ」の口で「エ」と発音します。面白いのは oi を「ウワ」と発音することです。日本語で人を後ろから脅かすとき「ウワ」と言いますが、フランス語のこの音変化から推理すると、元は呼びかけの「オイ」だったのでないかと思われるからです。また e は音が弱くなり単独ではほとんど音がありません。menu は「ムニュ」で madame は「マダーム」です。ただし後ろに子音があったり上にアクセント記号がつくと「エ」と読みます。dîner「ディネ」、café「カフェ」、mère「メール」です。

またフランス語には鼻母音（母音が鼻に抜ける）があります。日本語にも似たような現象に鼻濁音がありますがご存知ですか？鼻に抜けるために口の中が広くなるので、これも文字表記と発音が若干ずれます。im, in, eim, ein, aim, ain は「アン」に近い音に、em, en, am, an は「オン」に近い音になります。

最後にアクセントに関していうと、フランス語のアクセントは強弱アクセントで、その位置は素晴らしく簡単です。最後に発音する母音にアクセントがあります。これまであげた単語例のアクセントのある母音がゴシックで印刷してありますから確認してください。なぜこれほど

アクセントが簡単なのかというと、アクセントのある母音より後にある音は飲み込まれて消えてしまい、表記されなかったからなのです。

日本人にとって学びやすい点／学びにくい点

フランス語の発音は難しいと思われるかもしれませんが、そんなことはありません。フランス語には英語のような強いアクセントがありません。上でも説明したように、フランス語のアクセントは単語の最後に発音される母音にあり、とても簡単です。日本語に似て平坦な言葉なのです。ですから、真似るのは難しくありません。もちろんネイティブのような完璧な発音をするのは難しいでしょうが、習い始めてすぐでもあなたのフランス語はフランス人に通じるでしょう。

マスターするのが大変なのは、動詞の活用でしょう。動詞が主語によって変化するのは英語も同じですが、フランス語の場合はその変化の数がずっと多いのです。たとえば、「歌う」にあたる動詞 chanter ですが、次のように変化します。主語が「私」、「君」、「彼（彼女）」、「私たち」、「あなたたち」、「彼ら（彼女たち）」と変化するのに連動して chante, chantes, chante, chantons, chantez, chantent と 6 (5) つの形に変化します。実は、よく見ると語尾の形が異なりますね。でも、chantons と chantez を除くと他のすべての発音は同じで「シャントゥ」です。確かに全部覚えるのは大変ですが、大学ではそのうちの重要なものだけを学びます。

最近のトピック

理想的なワークライフバランス !?

フランスの法律で定められた1週間の労働時間は35時間。日本は40時間ですから、5時間も少ないことになります。さらに、一年間に5週間の有給休暇が与えられています。そして驚くべきことに、フランス人はこの休暇を文字通り「全て」消化します。

フランス人はプライベートを存分に楽しみ、家族とゆったり長期休暇を過ごします。帰宅する前、友人とカフェやブラスリーでお酒を飲みながら会話を楽しむこともあります。これを「アペリティフ」とよびます。それから家族と自宅で夕食をとります。長い休暇をお金をかけずに楽しむ術も知っています。田舎の祖父母の家に家族が集まり、ただのんびり一緒に過ごすのが、伝統的で最もオーソドックスな夏休みの過ごし方です。フランス人は、食卓に花を飾り、会話を楽しみながらゆっくりと食事をし、生活を楽しむことを大切に、毎日の暮らしが少しでも美しく喜びをもたらすものであるように心がけています。このような生き方は l'art de vivre à la française 「フランス流生活のアート」と呼ばれています。

でも、そんなにゆったり過ごして



パリのカフェ

いて経済の方は大丈夫でしょうか。しかし、心配するほどではないようです。一人当たりの名目 GDP では日本より上位なのですから。(2025 年の IMF 統計によれば、フランスは世界 27 位。日本は 38 位)。つまり、ダラダラと仕事をせず、メリハリのある働き方をしながら、成果も十分出していると言えるでしょう。

国民よりも多くの外国人観光客が訪れる国

フランスは、30 年以上観光客世界一の記録を保持し続けている観光大国です。2025 年には 1 億 2000 万人の外国人旅行者を迎えました。フランスの人口は 6800 万人ですから、人口の 2 倍近くの外国人がフランスを訪れていることになります。観光収入は、14 兆円を超えています (2025 年)。なぜそんなに多くの人々がフランスを訪れるのでしょうか。

まず、フランスの美しい自然は世界中の人々を魅了しています。夏は、地中海のビーチリゾート、冬にはアルプスにスキー客が押し寄せます。また、芸術の国であるフランスには、パリのルーブル美術館 (訪問者数世界一) をはじめとしてどこに行っても世界的に有名な美術館があり、ベルサイユ宮殿やモン・サンミッシェル修道院といった世界遺産が 37 ヶ所あります。さらには、ヨーロッパでも大人気のディーズニーランド・パリ。パリのディーズニーランドのお城は、シンデレラ城ではなく、「眠れる森の美女」のお城です。「眠れる森の美女」は、フランス人ペローの童話がもとになっています。

そして何より、パリの街並みはどこも美しく、特別な時を過ごすのにはただセーヌ川のほとりを歩いているだけで十分なのです。そのため、パリは、多くの映画やドラマの舞台に選ばれています。



モン・サン＝ミッシェル